

2019年8月21日
中国電力株式会社

島根2号炉 高経年化技術評価（共通事項）補足説明資料の再確認結果について

島根2号炉 高経年化技術評価（共通事項）補足説明資料（以下、「補説（共通）」という。）のコメント回答（2019年6月18日）時に、補説（共通）に記載不足や記載誤りが確認されたことを報告した。このため、補説（共通）の記載内容について以下のとおり再確認を実施した。

1. 再確認内容

補説（共通）全体の記載に対して、記載誤り（誤字、脱字）の確認を行った。また、高経年化技術評価書と補説（共通）内での整合確認も併せて行った。

2. 再確認結果

再確認の結果、補説（共通）に記載誤り（誤字、脱字）が12件あることを確認したことから、補説（共通）の記載を変更した。

また、記載誤り（誤字、脱字）以外として、高経年化技術評価書と補説（共通）内の記載の整合を図るとともに、過去のコメント回答内容の補説（共通）への反映を行った。

各変更箇所の詳細を添付資料（1）に示す。

なお、今回の変更内容は、現在までの当社説明内容を変更するものではないことを確認している。

3. 添付資料

- （1）島根2号炉 高経年化技術評価（共通事項）補足説明資料 変更箇所一覧表

以 上

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
1	18他	1)運転経験	原子力発電情報公開ライブラリー	原子力施設情報公開ライブラリー	②	同様箇所についても修正
2	26	2)②調達文書の作成	・・・要求事項を明確にした調達分書・・・	・・・要求事項を明確にした調達文書・・・	②	
3	別紙1-2	腐食(1-②) 耐震除外とする理由	<耐食性の高い材料(アルミニウム合金)を選定し設計> ・中央制御室空調和装置(冷却フィン)	<耐食性の高い材料(アルミニウム等)を選定し設計> ・中央制御室空調和装置(冷却フィン)	③	
4	別紙1-3	腐食(1-④) 耐震除外とする理由	<機器の内部が潤滑油環境にあり、塗装が施工されていない部位でも、部位表面に油膜が形成され、直接大気に接しない> ・ポンプ、タービン軸受 ・潤滑油ユニット内部 ・クランク軸、増速機歯車	<機器の内部が潤滑油環境にあり、塗装が施工されていない部位でも、部位表面に油膜が形成され、直接大気に接しない> ・ポンプ、タービン軸受 ・潤滑油ユニット内部 ・クランク軸ケーシング	③	
5	別紙1-3	腐食(1-⑤) 機器(例)	ポンプモータ 配管 弁 タービン設備 空調設備 機械設備 電源設備 全般 ・原子炉補機海水ポンプ ・ほう酸水注入ポンプ ・U字管式熱交換器 ・原子炉圧力容器	ポンプ 熱交換器 容器 配管 弁 タービン設備 空調設備 機械設備 全般 ・115V系蓄電池	③	
6	別紙1-3	腐食(1-⑤) 耐震除外とする理由	<塗装、メッキ等の防食処理により腐食を防止> ・ポンプのケーシング ・熱交換器の水室 ・ポンプモータの固定子コア、回転子コア等 <耐食性の高い材料(アルミニウム合金)を選定し設計> ・水圧制御ユニットアキュムレータ	<塗装、メッキ等の防食処理により腐食を防止> ・熱交換器の水室 ・原子炉格納容器のトールス部 ・中央制御室空調和装置のケーシング <耐食性の高い材料(アルミニウム合金等)を選定し設計> ・水圧制御ユニットアキュムレータ	③	
7	別紙1-4	腐食(1-⑦) 保全の方針	社内規定「配管肉厚管理手引書」に基づき、超音波探傷測定および・・・	社内規定「配管肉厚管理手引書」に基づき、超音波厚さ測定および・・・	③	
8	別紙1-5他	摩耗(2-①)	以下の分割した記載 ・連続して摺動状態となる部位 ・連続して摺動状態とならない部位	「摺動が想定される部位」に記載を統合	①	関連箇所も合わせて修正
9	別紙1-6	割れ(3-①) 保全の方針	なお、熱交換器伝熱管については、管支持板/伝熱管について想定するが、1.摩耗の項を参照のこと	なお、熱交換器伝熱管については、管支持板/伝熱管について想定するが、2.摩耗の項を参照のこと	②	
10	別紙1-7	割れ(3-⑥) 保全の方針	・・・社団法人 日本電気協会「軽水炉原子力発電所用機器の供用期間中検査(IEAC4205)」に基づき、・・・	・・・について、社団法人 日本機械学会「発電用原子力設備規格 維持規格(JSME S NA-1-2008)」および原子力規制委員会「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」に基づき、・・・	①	
11	別紙1-7	割れ(3-⑥) 保全の方針	その他上記以外では、点検計画に基づき、定期的を目視確認、漏えい確認、超音波探傷試験、浸透探傷試験を適切に組み合わせて行い、健全性を確認する。	その他上記以外では、点検計画に基づき、定期的を目視確認、漏えい確認、超音波探傷試験、浸透探傷試験、運転パラメータの確認を適切に組み合わせて行い、健全性を確認する。 なお、制御棒については、核的寿命に対して保守的に定めた運用基準に基づき取替を実施する。	③	
12	別紙1-7	割れ(3-⑥) 耐震除外とする理由	<SCCの3要素の一つである応力について、残留応力が小さい、またはIHSI、WJP等により応力を緩和している> ・原子炉浄化再生熱交換器の伝熱管 ・タービンラプチャーディスクのベース ・原子炉再循環系配管 ・シュラウド <SCCの3要素の一つである環境について、接液しない、または腐食環境を改善> ・主蒸気系配管 ・原子炉再循環系配管	<SCCの3要素の一つである応力について、残留応力が小さい、またはIHSI、WJP等により応力を緩和している> ・原子炉浄化再生熱交換器の伝熱管 ・タービンラプチャーディスクのベース ・原子炉再循環系配管、主蒸気系配管 ・シュラウド	①	

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字、脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
13	別紙1-8	割れ (3-⑦) 耐震除外とする理由	<塗装等による塩分付着防止> ・原子炉補機海水系配管、弁	<塗装等による塩分付着防止> ・原子炉補機海水系弁	③	
14	別紙1-8他	割れ (3-⑧)	記載なし	フレッティング疲労割れに関する内容を追記	①	関連箇所も合わせて修正
15	別紙1-8	中性子照射による 靱性低下 (5-①) 保全の方針	日本原子力技術協会	社団法人 原子力安全推進協会	②	
16	別紙1-8	導通不良 (6-①) 耐震除外とする理由	日常劣化管理事象 (△) のうち、耐震安全性に影響を与えないことが自明な経年化事象	<屋内空調環境> ・原子炉保護継電器盤 ・非常用ディーゼル発電機 <外部からの大きな荷重が作用しない構造> ・モジュール型核計装用電気ペネトレーション	③	
17	別紙1-9	断線 (6-②) 耐震除外とする理由	<断線に係わる腐食が発生しない> ・ほう酸水貯蔵タンクの電気ヒータ ・非常用ガス処理系前置ガス処理装置の加熱用ヒータ	<断線に係わる腐食が発生しない> ・可燃性ガス濃度制御系設備の加熱器エレメント ・非常用ガス処理系前置ガス処理装置の加熱用ヒータ	③	
18	別紙1-9	強度低下 (9-①) 耐震除外とする理由	<アルカリ骨材反応※に関する試験の結果、「無害」判定となったため> ※日本コンクリート協会「アルカリ骨材反応を生じたコンクリート構造物のコア試料による膨張率の測定方法(案)」等	<アルカリ骨材反応※に関する試験の結果、反応性骨材ではないことを確認したため> ※モルタルバー法による反応性試験	③	
19	別紙1-9	強度低下 (9-③) 保全の方針	必要に応じて補修塗装	必要に応じて取替	③	
20	別紙1-9 別紙2-5他	強度低下 (9-④)	【別紙1-9】 記載なし 【別紙2-5】 排気筒の金属疲労に対する内容を記載	【別紙1-9】 排気筒の金属疲労に関する内容を追加 【別紙2-5】 記載削除	①	関連箇所も合わせて修正
21	別紙1-10	その他 (11-②) 耐震除外とする理由	<内圧上昇しない設計>	<充電電圧を適正值で維持>	③	
22	別紙1-10	その他 (11-④) 機器 (例)	・原子炉補機海水熱交換器	・原子炉補機冷却系熱交換器	②	
23	別紙1-10	その他 (11-⑤) 保全の方針	11-⑤伝熱管に流体：海水が接液しない部位 定期的に目視確認、浸透探傷試験および系統パラメータの確認を行い、健全性を確認する。	11-⑤伝熱管および配管に流体：海水が接液しない部位 定期的に目視確認および系統パラメータの確認を行い、健全性を確認する。 配管については、超音波厚さ測定または放射線透過試験等により、偏流部、偏流影響を受ける下流配管の健全性を確認する。	③	
24	別紙1-10	その他 (11-⑤) 耐震除外とする理由	<内部流体の不純物管理> ・原子炉浄化再生熱交換器 ・非常用ディーゼル機関本体の空気冷却器伝熱管 ・給水系配管のオリフィス	<内部流体の不純物管理> ・原子炉浄化再生熱交換器 ・非常用ディーゼル機関本体の空気冷却器伝熱管	③	
25	別紙1-12	その他 (11-⑩) 機器 (例)	・ダクト、ダンパ ・液体廃棄物処理系設備	・ダクト ・原子炉建物給気隔離弁 ・液体廃棄物処理系設備	③	
26	別紙1-13 別紙2-4他	・クリープに関する保全の方針 ・日常劣化管理事象以外の事象 (No. 22~25)	【別紙1-13】 日常劣化管理事象 (△事象) としてクリープに関する評価を記載 【別紙2-4】 記載なし	【別紙1-13】 記載を削除 【別紙2-4】 日常劣化管理事象以外 (▲事象) として追記 (No. 22~25)	①	関連箇所も合わせて修正
27	別紙1-13 別紙2-5他	・その他 (11-⑭) 保全の方針他 ・日常劣化管理事象以外の事象 (No. 36)	【別紙1-13】 炉内構造物の照射スウェリングについて、日常劣化管理事象 (△事象) として記載 【別紙2-5】 記載なし	【別紙1-13】 炉内構造物の照射スウェリングに関する記載を削除 【別紙2-5】 日常劣化管理事象以外 (▲事象) として追記 (No. 36)	①	関連箇所も合わせて修正

※1: ①コメント回答内容反映のため
 ②記載誤り(誤字、脱字)のため
 ③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
28	別紙1-13 別紙2-5他	・その他(11-⑮) 保全の方針他 ・日常劣化管理事 象以外の事象 (No. 37)	【別紙1-13】 炉内構造物の照射下クリープにつ いて、日常劣化管理事象(△事象)と して記載 【別紙2-5】 記載なし	【別紙1-13】 炉内構造物の照射下クリープに関する 記載を削除 【別紙2-5】 日常劣化管理事象以外(▲事象)とし て追記(No. 37)	①	関連箇所も合わせて修正
29	別紙1-14	耐震影響(No. 1)	二	■	③	
30	別紙1-14他	ターボポンプ	基礎ボルトに関する評価を記載	当該行を削除	③	同様箇所についても修正
31	別紙1-15他	保全の方針 (No. 14)	1-⑤	1-②	③	同様箇所についても修正
32	別紙1-15	耐震影響(No. 24)	二	■	③	
33	別紙1-17	保全の方針(No. 40)	1-② 1-⑤	1-② 1-⑤ 1-⑥	③	
34	別紙1-18	耐震影響(No. 50)	二	■	③	
35	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 62)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	原子炉格納容器漏えい率検査におい てバウンダリ機能の健全性を確認す る。	③	
36	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 63)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	原子炉格納容器漏えい率検査におい てバウンダリ機能の健全性を確認す る。	③	実績等も合わせて修正
37	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 64)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	目視確認を行い、有意な腐食がない ことを確認する。	③	
38	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 65)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	原子炉格納容器漏えい率検査におい てバウンダリ機能の健全性を確認す る。	③	実績等も合わせて修正
39	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 66)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	原子炉格納容器漏えい率検査におい てバウンダリ機能の健全性を確認す る。	③	実績等も合わせて修正
40	別紙1-19	劣化管理の考え方 (No. 67)	原子炉開放時に目視確認を行い、有 意な腐食がないことを確認する。	目視確認を行い、有意な腐食がない ことを確認する。	③	
41	別紙1-23	耐震影響(No. 97)	■	二	③	
42	別紙1-23	耐震影響 (No. 106)	■	二	③	
43	別紙1-24	耐震影響 (No. 109)	二	■	③	
44	別紙1-24	耐震影響 (No. 110)	二	■	③	
45	別紙1-24	耐震影響 (No. 113)	■	二	③	
46	別紙1-24	耐震影響 (No. 114)	■	二	③	
47	別紙1-24	耐震影響 (No. 117)	二	■	③	
48	別紙1-25	耐震影響 (No. 123)	■	二	③	
49	別紙1-25他	対象機器 (No. 125)	共通(代表確認) ①グラウンド蒸気圧力調節弁 ②炉頂部冷却水流量調節弁 ③中央制御室冷凍機出口圧力調節弁 ④グラウンド蒸気発生器胴体圧力調節 弁 ⑤第4ヒータ高水位調節弁	①グラウンド蒸気圧力調節弁 ②炉頂部冷却水流量調節弁 ③中央制御室冷凍機出口圧力調節弁 ④グラウンド蒸気発生器胴体圧力調節 弁 ⑤第4ヒータ高水位調節弁	③	同様箇所についても修正
50	別紙1-25	耐震影響 (No. 126)	二	■	③	
51	別紙1-26	耐震影響 (No. 129)	二	■	③	
52	別紙1-26他	対象機器 (No. 134)	原子炉隔離時冷却系タービン気隔離弁用 駆動部	原子炉隔離時冷却系タービン排気隔離弁 用駆動部	②	同様箇所についても修正
53	別紙1-32	耐震影響 (No. 182)	二	■	③	
54	別紙1-32	実績(No. 188)	③③	③	②	
55	別紙1-32	対象機器 (No. 189)	②原子炉隔離時冷却系排気ラブ チャーディスク間圧力計測装置	②原子炉隔離時冷却系排気ラブ チャーディスク間圧力計測装置	②	

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字, 脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
56	別紙1-32	対象機器 (No. 189)	⑤燃料プール温度計測装置 ⑥主蒸気流量計測装置 ⑦原子炉水位計測装置 ⑧スクラム排出水容器水位計測装置 ⑨換気系放射線計測装置 ⑩水素濃度計測装置 ⑪酸素濃度計測装置 ⑫低圧原子炉代替注水流量計測装置 ⑬燃料プール水位計測装置 ⑭原子炉建物水素濃度計測装置	⑤主蒸気管周囲温度計測装置 ⑥主蒸気流量計測装置 ⑦原子炉水位計測装置 ⑧スクラム排出水容器水位計測装置 ⑨換気系放射線計測装置 ⑩水素濃度計測装置 ⑪酸素濃度計測装置 ⑫低圧原子炉代替注水流量計測装置 ⑬原子炉建物水素濃度計測装置	③	実績等も合せて修正
57	別紙1-32	部位 (No. 189)	計器架台	計器架台, サポートおよびベースプレート	③	
58	別紙1-32	対象機器 (No. 190)	①原子炉隔離時冷却系排気ラプ チャーディスク間圧力計測装置 ②主蒸気管放射線計測装置 ③地震加速度計測装置	①主蒸気管放射線計測装置 ②地震加速度計測装置	③	実績等も合せて修正
59	別紙1-34	劣化管理の考え方 (No. 214)	定期的に目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	目視確認および漏えい確認を行い、健全性を確認する。 外面については、目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	③	
60	別紙1-35	劣化管理の考え方 (No. 215)	定期的に目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	目視確認および漏えい確認を行い、健全性を確認する。 外面については、目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	③	
61	別紙1-35	劣化管理の考え方 (No. 229)	ダクト内面からの点検により、塗装またはメッキの健全性を確認する。	ダクト内面からの点検により、塗装の健全性を確認する。	③	
62	別紙1-36他	対象機器 (No. 230)	①原子炉棟空調換気系ダクト (丸ダクト 炭素鋼) ②中央制御室空調換気系ダクト (丸ダクト 炭素鋼) ③中央制御室空調換気系ダクト (角ダクト 炭素鋼) ④中央制御室空調換気系ダクト (角ダクト 炭素鋼)	①原子炉棟空調換気系ダクト (丸ダクト 炭素鋼) ②中央制御室空調換気系ダクト (丸ダクト 亜鉛メッキ鋼) ③中央制御室空調換気系ダクト (角ダクト 炭素鋼) ④中央制御室空調換気系ダクト (角ダクト 亜鉛メッキ鋼)	③	同様箇所についても修正
63	別紙1-37	部位 (No. 241)	クランクケース給・排気管サポート	クランクケース給・排気管サポート	②	
64	別紙1-37	検査周期 (No. 247)	①-2 二	①-2 130M	③	
65	別紙1-38	検査周期 (No. 250)	①-18 無	①-18 130M	③	
66	別紙1-38	対象機器 (No. 255)	①-1 冷却水ポンプ (機付) ①-2 一次水冷却器 (胴側) ①-3 一次水膨張タンク ①-4 一次水空気抜タンク ①-5 冷却水系配管 ①-6 一次水冷却器	①-1 冷却水ポンプ (機付) ①-2 一次水冷却器 (胴側) ①-3 一次水膨張タンク ①-4 一次水空気抜タンク ①-5 冷却水系配管	③	
67	別紙1-39	劣化管理の考え方 (No. 272)	目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	目視確認を行い、健全性を確認する。	③	
68	別紙1-41	劣化管理の考え方 (No. 301)	目視確認を行い、塗装の健全性を確認する。	目視確認を行い、健全性を確認する。	③	
69	別紙1-41	対象機器 (No. 303)	①-3 化学廃液濃縮器復水器 ①-4 濃縮廃液ポンプ	①-3 化学廃液濃縮器 ①-4 化学廃液濃縮器復水器	③	実績等も合せて修正
70	別紙1-42	部位 (No. 308)	汽水胴等のボイラ燃焼室内部	汽水胴, 水胴, 連絡管, 蒸発管	③	
71	別紙1-42	部位 (No. 309)	安全弁 (機付), バーナ	管寄せ, 下降管, 安全弁 (機付), バーナ	③	
72	別紙1-42	検査周期 (No. 310)	①-3 一	①-3 2Y, 6Y, 一	③	
73	別紙1-42	部位 (No. 315)	①-2 弁	①-3 弁	②	
74	別紙1-42	行追加 (No. 319)	記載なし	基礎ボルト (直上部) に関する内容を追加	③	

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字, 脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
75	別紙1-43	保全の方針 (No. 323)	1-② 1-⑤	1-②	③	
76	別紙1-43	劣化管理の考え方 (No. 324)	目視確認を行い、塗装の状態を確認する。	目視確認を行い、健全性を確認する。	③	
77	別紙1-43	保全の方針 (No. 325)	1-② 1-⑤	1-②	③	
78	別紙1-44	対象機器 (No. 353)	①115V系蓄電池	①115V系蓄電池 ②230V系充電器	③	
79	別紙1-45	劣化管理の考え方 (No. 369)	超音波探傷試験または放射線透過試験により、下流配管の点検により減肉傾向を把握する。	超音波厚さ測定または放射線透過試験等により、オリフィス、フローノズル、偏流影響を受ける下流配管の健全性を確認する。	③	
80	別紙1-45	劣化管理の考え方 (No. 370)	超音波探傷試験または放射線透過試験を行い、健全性を確認する。	配管材質、内部流体等を考慮して管理ランクを設定し、超音波厚さ測定または放射線透過試験等を行い、減肉傾向を把握する。	③	
81	別紙1-46	部位 (No. 372)	弁箱, 弁ふた, 弁体, 弁座	弁箱, 弁ふた, 弁座	③	
82	別紙1-46	部位 (No. 376)	弁箱, 弁ふた, 弁座	弁箱, 弁ふた	③	
83	別紙1-46	検査方式 (No. 380)	①二 ②二	①TBM ②TBM	③	
84	別紙1-47	検査方式 (No. 391)	①-2 TBM, BDM	①-2 BDM	③	
85	別紙1-47	劣化管理の考え方 (No. 392)	超音波探傷試験または放射線透過試験を行い、健全性を確認する。	配管材質、内部流体等を考慮して管理ランクを設定し、超音波厚さ測定または放射線透過試験等を行い、減肉傾向を把握する。	③	
86	別紙1-48	劣化管理の考え方 (No. 393)	超音波探傷試験または放射線透過試験を行い、健全性を確認する。	配管材質、内部流体等を考慮して管理ランクを設定し、超音波厚さ測定または放射線透過試験等を行い、減肉傾向を把握する。	③	
87	別紙1-48	劣化管理の考え方 (No. 394)	超音波探傷試験または放射線透過試験により、下流配管の点検により減肉傾向を把握する。	超音波厚さ測定または放射線透過試験等により、オリフィス、偏流影響を受ける下流配管の健全性を確認する。	③	
88	別紙1-48	劣化管理の考え方 (No. 396)	超音波探傷試験または放射線透過試験により、健全性を確認する。	配管材質、内部流体等を考慮して管理ランクを設定し、超音波厚さ測定または放射線透過試験等を行い、減肉傾向を把握する。	③	
89	別紙1-48	耐震影響 (No. 403)	二	■	③	
90	別紙1-50	劣化管理の考え方 (No. 424)	目視確認を行い、健全性を確認する。	主軸の寸法測定を行い、健全性を確認する。	③	
91	別紙1-51	劣化管理の考え方 (No. 431)	目視確認および浸透探傷試験を実施し、健全性を確認する。	目視確認および主軸と軸受部の間隙測定を実施し、健全性を確認する。	③	
92	別紙1-51	劣化管理の考え方 (No. 432)	目視確認および浸透探傷試験を実施し、健全性を確認する。	目視確認および主軸と軸受部の間隙測定を実施し、健全性を確認する。	③	
93	別紙1-51	劣化管理の考え方 (No. 435)	目視確認を行い、有意な腐食が無いことを確認している。	目視確認を行い、有意な摩耗が無いことを確認している。	③	
94	別紙1-53	検査方法 (No. 456)	①VT-3	①MVT-1	①	当該機器の検査方法は同様に修正
95	別紙1-54	劣化管理の考え方 (No. 465)	定期的目視確認および浸透探傷検査を実施し、健全性を確認する。	定期的目視確認、主軸と軸受部の寸法測定を行う。	③	
96	別紙1-54	劣化管理の考え方 (No. 474)	油環境下にあることから、摩耗進行の可能性は小さく、これまでの点検結果からも有意な摩耗は認められていない。	点検(目視確認および寸法測定)により、健全性を確認する。	③	
97	別紙1-57	耐震影響 (No. 503)	二	■	③	

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字, 脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
98	別紙1-57	耐震影響 (No. 504)	二	■	③	
99	別紙1-58	劣化管理の考え方 (No. 525)	主軸の寸法測定を行い、健全性を確認する。	点検時に動作確認を行い、健全性を確認する。	③	
100	別紙1-59	劣化管理の考え方 (No. 547)	目視確認を行い、健全性を確認する。	目視確認または寸法測定を行い、健全性を確認する。	③	
101	別紙1-59	対象機器 (No. 551)	①-1 空気抽出器 ①-2 排ガスブロワ	①-1 排ガスブロワ	③	
102	別紙1-60	劣化管理の考え方 (No. 564)	目視確認および浸透探傷試験を実施し、健全性を確認する。	目視確認および主軸と軸受部の間隙測定を実施し、健全性を確認する。	③	
103	別紙1-60	耐震影響 (No. 566)	二	■	③	
104	別紙1-61	劣化管理の考え方 (No. 577)	機能確認時に配管外面に異常のないことを確認する。	機能確認を実施し有意な振動がないことを確認する。	③	
105	別紙1-61	部位 (No. 587)	原子炉ウェル, サンプリングノズル	温度計ウェル, サンプリングノズル	②	
106	別紙1-63	対象機器 (No. 608)	①-1 炉隔離時冷却ポンプ駆動用蒸気タービン	①-1 炉隔離時冷却ポンプ駆動用蒸気タービン	②	
107	別紙1-63	耐震影響 (No. 612)	■	二	③	
108	別紙1-63	耐震影響 (No. 613)	■	二	③	
109	別紙1-64	耐震影響 (No. 614)	■	二	③	
110	別紙1-64	部位 (No. 619, 620)	【No. 619】 燃料噴射弁, 燃料噴射弁スプリング, 給・排気弁, 給・排気弁スプリング, 過給機ロータ, シリンダヘッド, シリンダライナ, クランクケース 【No. 620】 ピストン	【No. 619】 燃料噴射弁, 燃料噴射弁スプリング, 給・排気弁スプリング, シリンダライナ, クランクケース 【No. 620】 ピストン, 給・排気弁, 過給機ロータ, シリンダヘッド	③	
111	別紙1-65	行追加 (No. 631)	記載なし	可燃性ガス濃度制御系設備 電動弁駆動部 モータ主軸の高サイクル疲労割れについて追記	③	
112	別紙1-67	劣化管理の考え方 (No. 667)	超音波探傷試験, 漏えい試験または外観点検により健全性を確認する。	超音波探傷試験または漏えい試験により健全性を確認する。	③	
113	別紙1-67	検査方法 (No. 674)	①VT-3	①VT-3, MVT-1	①	・実績等も合わせて修正 ・当該機器の検査方法は同様に修正
114	別紙1-68	検査方法 (No. 678)	①VT-3	①MVT-1	①	
115	別紙1-72	検査周期 (No. 738)	①-1 無 ①-2 無 ①-3 無	①-1 130M ①-2 130M, 10C ①-3 130M	③	
116	別紙1-73	劣化管理の考え方 (No. 743)	目視確認を行い、健全性を確認する。	点検時に動作試験を行い、健全性を確認する。	③	
117	別紙1-73	対象機器 (No. 749, 750)	【No. 749】 ①所内ボイラ設備 ①-1ボイラ本体 【No. 750】 ①所内ボイラ設備 ①-1ボイラ本体 ①-2蒸気だめ ①-3蒸気系配管 ①-4蒸気系弁	【No. 749】 ①所内ボイラ設備 ①-1ボイラ本体 ①-2蒸気系弁 【No. 750】 ①所内ボイラ設備 ①-1ボイラ本体 ①-2蒸気だめ ①-3蒸気系配管	③	部位, 実績等も合わせて修正
118	別紙1-73	検査方式 (No. 751)	①-1 TBM ①-2 TBM	①-1 BDM ①-2 TBM, BDM	③	検査周期も合わせて修正

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字, 脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
119	別紙1-74	部位 (No. 761, 762)	【No. 761】 羽根車、ケーシングリング 【No. 762】 水中軸受	【No. 761】 羽根車 【No. 762】 水中軸受、ケーシングリング	③	
120	別紙1-75	対象機器 (No. 774)	①制御棒	①ボロン・カーバイド粉末型制御棒 ②ハフニウム棒型制御棒	③	
121	別紙1-75	劣化管理の考え方 (No. 774)	・・・粒界型応力腐食割れにより制御棒の制御能力および動作性に問題が生じていないことを・・・	・・・中性子照射による靱性低下により制御棒の制御能力および動作性に問題が生じていないことを・・・	③	
122	別紙1-77	部位 (No. 795)	回転数検出器 (電磁ピックアップ式)	回転速度検出器 (電磁ピックアップ式)	③	
123	別紙1-77	対象機器 (No. 797)	⑬低圧原子炉代替注水流量計測装置 ⑭燃料プール水位計測装置 ⑮ドライウェル水位計測装置 ⑯原子炉建物水素濃度計測装置	⑬原子炉隔離時冷却タービン回転速度計測装置 ⑭低圧原子炉代替注水流量計測装置 ⑮燃料プール水位計測装置 ⑯ドライウェル水位計測装置 ⑰原子炉建物水素濃度計測装置	③	実績等も合わせて修正
124	別紙1-80	劣化管理の考え方 (No. 832)	目視確認および端子間の抵抗測定を行い健全性を確認する。	絶縁抵抗測定を行い、健全性を確認する。	③	
125	別紙1-80	対象機器 (No. 838, 839)	①制御装置 (粘性ダンパ)	①排気筒 (制震装置付)	③	
126	別紙1-81	劣化管理の考え方 (No. 847)	超音波探傷試験または放射線透過試験により、下流配管の点検により減肉傾向を把握する。	超音波厚さ測定または放射線透過試験等により、オリフィス、フローノズル、偏流影響を受ける下流配管の健全性を確認する。	③	
127	別紙1-81	耐震影響 (No. 847)	二	■	③	
128	別紙1-81	劣化管理の考え方 (No. 848)	超音波探傷試験または放射線透過試験により、下流配管の点検により減肉傾向を把握する。	超音波厚さ測定または放射線透過試験等により、オリフィス、偏流影響を受ける下流配管の健全性を確認する。	③	
129	別紙1-81	耐震影響 (No. 848)	二	■	③	
130	別紙1-84	検査方式 (No. 887)	①無	①TBM	③	検査周期も合わせて修正
131	別紙1-85	劣化管理の考え方 (No. 907)	定期的に目視確認、主軸と軸受部の寸法測定を行う。	定期的に目視確認および浸透探傷検査を実施し、健全性を確認する。	③	
132	別紙2-2	進展傾向が極めて小さいと判断した理由 (No. 4)	気中部は、窒素環境であるため腐食が発生する可能性は小さく、問題とならない。埋設部は、コンクリートの中性化により腐食が想定されるが、実機コンクリートの中性化深さを評価した結果、問題ないことを確認している。	気中部については塗装により腐食を防止していることに加え、窒素環境であることから、腐食が発生する可能性は小さく、問題とならない。コンクリート埋設部については、コンクリートの中性化により腐食が想定されるが、実機コンクリートの中性化深さを評価した結果、問題ないことを確認している。	①	
133	別紙2-2	評価機器 (No. 5)	共通	電線管	①	
134	別紙2-2	進展傾向が極めて小さいと判断した理由 (No. 5)	内面は、亜鉛メッキ処理が施されており・・・	内外面は、亜鉛メッキ処理が施されており・・・	③	
135	別紙2-2	評価機器 (No. 7)	機器付基礎ボルト 後打ちメカニカルアンカ	機器付基礎ボルト 後打ちメカニカルアンカ 後打ちケミカルアンカ	③	
136	別紙2-2	部位 (No. 7)	塗装部およびコンクリート埋設部	塗装部およびコンクリート埋設部 (後打ちアンカケミカルアンカは塗装部のみ)	③	
137	別紙2-4	部位 (No. 29)	二	機器付基礎ボルト、テーパボルト、シールド	③	

※1: ①コメント回答内容反映のため
 ②記載誤り(誤字、脱字)のため
 ③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため

島根2号炉 高経年化技術評価(共通事項)補足説明資料 変更箇所一覧表

No.	頁	変更箇所	変更前	変更後	変更理由 ※1	備考
138	別紙2-5	評価機器 (No. 34)	共通	難燃PNケーブル 難燃CVケーブル 難燃VVケーブル 特殊耐燃VVケーブル	③	

※1:①コメント回答内容反映のため
②記載誤り(誤字, 脱字)のため
③高経年化技術評価書および補説(共通)内での整合のため